



上向台小だより

2月号
西東京市立上向台小学校
令和5年1月31日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

仕合わせ

副校長 河 又 学

皆さんにとって、「幸せ」とは何でしょうか。

- ・ お金に不自由しないこと
- ・ 容姿端麗なこと
- ・ 好きなことができること
- ・ 健康であること

など、それぞれ思うところがあることでしょう。そもそも「幸せ」とは何でしょう。明鏡国語辞典によると、

- ・ 「幸運に恵まれて、心が満ち足りていること。幸福。」

と記されています。このことから、心のもちようで、幸福にも不幸にも感じられるということを知ることができます。

また、相田みつを氏の作品に、

- ・ 「しあわせは いつも じぶんの ころが きめる」

というものがあります。同じ環境でも、本人が幸せだと感じれば、それは紛れもない「幸せ」だということに他なりません。

明鏡国語辞典には、次のような記載もあります。

- ・ 「偶発性を重視するときは『仕合わせ』も好まれる。」

かつては「仕合わせ」は、いい意味にも、悪い意味にも用いられていました。当時は良し悪しをつけて表現していましたが、徐々に「仕合わせ」という言葉は、幸福である状態のみを表すように変化したと言われています。そして、「幸福」という言葉の「幸」が、「しあわせ」にあてられたそうです。

はじめの問いに戻りますが、人間の幸せは次の4つに大別されるとも言われています。

- ①人に愛されること
- ②人に褒められること
- ③人の役に立つこと
- ④人から必要とされること

少し逸れるかもしれませんが、原田ひ香著の「三千の使いかた」に、以下のようなエピソードがあります。73歳の女性が、老後の生活を送っていました。そんなとき、おせち料理の先生を依頼され、5000円頂きました。そこで、自分が働いたことによる対価に加え、人の役に立ったという経験が大きく心を動かしました。そして、自らコンビニやハローワークに行くのですが、高齢ということもなかなか採用が決まりません。そして、遂に仕事が決まります。(本では和菓子屋で、ドラマではアパレルショップです。)先程の4つの幸せとの関連性を、強く感じました。

2月は、ふれあい月間です。その取組の一つとして、2月4日(土)の道徳授業地区公開講座では、全学級が1・2時間目に「感謝」についての授業を行います。「感謝」と「幸せ」は、不可分です。また、10時30分から11時30分に、講演会・意見交換会を行います。内容は、「“やさしい気持ち”の伝え方」で、講師は元本校校長の神山繁樹先生です。これらのことについて皆様と共に考え、ふれあい月間を充実させていきたいと思っております。多くの方のご参加、お待ち申し上げております。